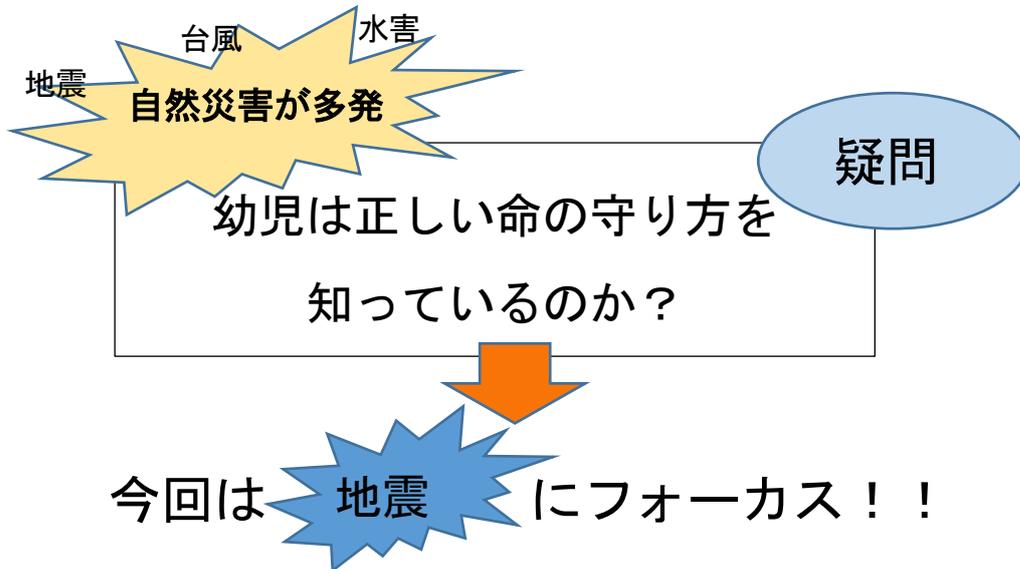


こどもたちにできる いのちのまもりかた



現状調査 保育園の防災教育の現状

- ① 避難訓練をしっかり行っている
- ② 避難経路のマニュアルを作っている
- ③ どの保育士がだれを連れて避難するか決めてある

『東日本大震災被災保育所の対応に学ぶ
～子供たちを災害から守るための対応集～』
より

↓
学校周辺の2つの保育園にて聞き取り

結果 両方の園とも、被災保育所同様、しっかりと対応をなされている

現場の声 子どもたちは自分の身をどのようにして守ればよいのか詳しく理解できていない

needs!

目標 子どもたちが、とっさに命を守る行動ができるようになる

活動、開始!

1. 地震の際に考えられる 危険なことを挙げる

2. 「青少年赤十字 防災教育プログラム」実施

↓
子どもたちに共通して伝えるべきこと 決定!

- ① 落ちてくるもの
- ② 倒れてくるもの
- ③ 動いてくるもの

に気を付けよう!



3. プレ発表会：本校の先生方のお子さんに向けて、とりあえずやってみる

やってみてわかったこと ↓

- ・説明ばかりだと飽きてしまう
- ・子どもたちの発言に対する自分たちの対応が不十分
- ・子どもへの誉め言葉のバリエーションが少ない

【課題】

- 全体的な練習量を増やす
- ・子どもと深くかかわる



4. 保育園での活動①(A園)

○事前に綿密な打ち合わせ

- ・園では、地震の際はロッカーに隠れて頭を守るという指導 → 私たちも同様に行う
- ・作成したシナリオが、園児に対する言葉がけとして適切かチェック → 新たな発見あり

やってみて ↓

- ・ロッカーに隠れる動きを取り入れた → 〈先生方から〉「動きを取り入れていたので、子どもたちはより理解が深まったと思う」

5. 保育園での活動②(B園)

○4～5人のグループ活動にした

- ・少人数のほうがまとめやすくなるのではないかと

やってみて ↓

- ・部屋の真ん中に集まって小さくなり頭を抱える → 〈先生方から〉
通称「ダンゴムシのポーズ」をとり入れた 動きを取り入れたことを評価して頂いた



全体の評価と反省

- ・動きを取り入れたことが子どもたちのより深い理解につながった
子どもには話すだけでは伝わらない…工夫したことを評価してもらった
- ・[B園の先生より] 子どもたちのいる教室の中の危険個所を子どもたちに教えてほしかった
→ A園の実施時に自由に動き回る園児への対応が難しく、B園では取りやめたが、指導の工夫をすることで今後取り入れていけるとよい。



改善！

まとめ・感想

私たちは今回この研究を通し、第一に『地震』という災害について再確認することができた。さらに、保育の観点からみると子どもの特性を知ることでもでき、常に予期せぬ行動や発言をする子ども達への対応など、学べたことは大きかった。

現在は新型コロナウイルスの影響があるが、再び保育園を訪問できるようになったら、より園と信頼を深め、子どもたちの安全に貢献できるように回数を重ねていきたいと思う。また、赤十字の方をお呼びし、いっそう自分達も災害に向けての学びを深め、地域を支える一員となっていきたい。